

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200215		
法人名	社会福祉法人 百合の会		
事業所名	グループホーム オニオンコート		
所在地	札幌市北区百合が原11丁目186-3		
自己評価作成日	平成26年9月6日	評価結果市町村受理日	平成26年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0170200125-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○近隣の協力機関・特養看護師と連携し、24時間体制で医療、健康面で細やかな対応を行っている。
 ○隣接している母体施設特養の設備(喫茶・機能訓練スペース)使用や実施している活動(移動売店・各地域幼稚園など)に参加している。又特養・ディサービスと連携し、合同行事(誕生会、盆踊り、敬老会など)にも参加し人々との出会いや交流が持てるようにしている。
 ○外出行事も年2回以上実施し、空港見学や外食に出かけ普段と違った雰囲気を楽しんで頂いている。
 ○個別誕生会の取り組みも継続しており、本人の希望に合わせた場所ですいつもより長い時間ゆっくりと過ごして貰っている。
 ○毎月認知症ケア会議を開き認知症について学習し、普段のケアに活かせるように努めている。
 ○ご家族の協力が多くあり、行事など沢山の方が参加して下さい。
 ○花壇や畑があり土いじりもして貰っている。
 ○隣に百合が原公園があるので公園までの散歩を日課にされていたり、寒くなってきたら特養へ散歩へ行かれたりと健康の為の運動にも気を使っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

百合が原公園に近い自然豊かな恵まれた環境に位置しているグループホームである。3階建の建物の3階が事業所で、1階の渡り廊下で続く別棟が特別養護老人ホームとなっているので、共同で毎年盆踊りを開催し地域の方々が大勢参加している。また、特養に大勢の幼稚園児が訪問する機会があり一緒に触れ合いを楽しんでいる。共用空間は広く清潔であり、全体が明るく設備が整っている。居室も広くて清潔で大きな窓からの眺めも良い。地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念があり、毎年の事業計画書にも理念を示しており職員の理解度が高い。運営に対する家族の協力度が高く、運営推進会議や行事には大勢の家族が参加している。事業所でも、担当者が利用者一人ひとりの様子を毎月手紙で家族に知らせ、誕生日にも手紙を送付している。年1回の家族アンケートも結果をフィードバックしている。医療面では、隣接した協力医療機関をすぐに受診しているので利用者・家族の安心感は強い。職員の言葉づかいはゆったりしており、優しく声がけしている。日曜以外は毎日入浴可能で、時間帯や回数も可能な限り利用者の希望に応じており、脱衣所の温度管理にも注意している。行事以外に、毎週、音楽療法を行い、毎月フラワーアレンジメントの指導があるなど利用者は毎日の生活を楽しくしている。

V. サービスの成果に関する項目(かつこうアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に付く所に理念を掲示し、又月に1度認知症ケア会議の中で理念の確認を行い、意識を高め実践に向け取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を毎月のケース会議の際に一人ひとりが確認している。毎年の事業計画書にも理念を示し全職員に周知しており、職員の理解度も高い。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に施設行事に参加して頂く機会を作ったり、特養やサービスとの合同行事などで交流を行っている。	町内会行事は少ないが、1階の渡り廊下で続く別棟にある特別養護老人ホームと共同で毎年盆踊りを開催し、地域の方々が大勢参加している。また、特養に大勢の幼稚園児が訪問する機会があり一緒に触れ合いを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的には行っておらず今後の課題としたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、地域包括センター、予防センター、病院職員、地域住民、ご家族に参加して頂き行事の報告や色々なテーマで意見交換などしサービス向上へ活かすように努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、介護予防センター相談員、地域の方、複数の家族が参加し、外部評価についても話し合っている。また、消防署の職員に話しをしてもらう機会もある。議事録は全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議や役員会、職員の外部研修などで連絡を取ったり、他のグループホームとの交流も行っている。	北区の介護予防センターの運営を法人が委託されており、事業所のホーム長がセンター長を務めている関係で、市や地域包括支援センターとの協力関係は密接である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで身体拘束についての基準や具体的な行動等を理解できるようにして職員の意識強化に努めている。	「身体拘束等の排除マニュアル」が整備されており、年2回、身体拘束をしないケアの実践についての研修も行っている。玄関は日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会にて傷、あざ記録を報告して虐待の疑いはないか等議論し防止に努めている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会などを設けて成年後見人制度について学ぶ機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項を説明し不安や疑問には納得がいくまで説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスを設置し日々の意見や要望等をその都度検討すると共にすぐ対応するようにしている。	担当者が利用者一人ひとりの様子を毎月手紙で家族に知らせるほか誕生日にも手紙を送付している。年2回発行の広報もある。また、年1回家族アンケートを行い、結果もフィードバックしている。隣接した協力医療機関が往診してくれるので利用者・家族の安心感は強い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議は2週間に1度行い、意見交換している。	2週間毎の会議では、職員は活発に意見交換している。また、毎年1回、契約更新時にホーム長が職員一人ひとりの意見を聞く機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を考慮しそれに応じた給与水準、現場環境、条件の整備を行い やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やチャレンジシートを使用し、スキルアップができる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市と区のグループホーム連絡会に出席し勉強会や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を与えないようコミュニケーションをしっかりと取り本人が安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際はこちらから近況報告をし、ご家族の疑問、質問、要望などを聞きやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをし本人に必要な支援を検討しサービス提供している。活用できるサービスも考慮して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しながらご本人の自由を尊重しつつ、家庭的な雰囲気を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時はゆっくりと過ごすことができるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設関連の医療施設だけではなく本人や家族が希望される病院の受診などできるように努めている。	利用者の知人・友人が事業所を訪問する際は、お茶を提供して居室でゆっくり過ごせるように配慮している。家族の協力で馴染みの床屋に行く利用者もいる。また、お盆や正月には家族が迎えに来て外泊するケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には入居者さん同士の会話の仲介に入り孤立しないよう、又トラブル防止にも努めている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ入所された方に支援の相談やご家族のお話を聞いたりし関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるよう個別誕生会ではできるだけ個々の思いに添った対応をしている。	職員は、思いを言葉で表出できない利用者には、表情や動作で察知するように努力している。また、生活歴の記録や家族の意見も参考に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族よりこれまでの生活歴を伺い又センター方式のシートを活用しこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めるよう職員間の情報交換を密にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、ケース会議等で家族の意向や本人の個性を重視したケアプラン作成に努めた。	利用開始時に作成した介護計画は、1か月、3か月、6か月後で見直し、その後は6か月毎に更新している。状況が変化した際は期間内でも更新している。日々の記録も介護計画を意識して記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等個別日誌に記入し 日常の変化、要望を把握しケアプランへ反映させている。必要時カンファレンスや会議等でプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養のカラオケルームや地域交流スペースにあるゲームなども活用しグループホーム内だけではなく柔軟な支援やサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に参加して頂けるように、会議の主旨を地域の方に理解して頂き、連携を持てるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人や家族と相談し、同意の下で受診している。又 歯科 皮膚科 精神科 耳鼻科 精神科なども母体施設と連携を取り随時随時住診できるようにしている。	医療機関の選択は自由であるが、現在は殆どの利用者が協力医療機関を受診している。医療情報は個人毎に「受診・服薬内容」に記録し、全職員で共有している。	

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院内の看護職員や医師に受診すべきか等迷った場合は相談でき 助言等を受けられるような体制になっている。又特養の看護師が週1回 グループホームに来て健康管理の支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者、家族、病院との連絡を密にするよう心掛けている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意書に署名捺印をもらっている。実際に重度化した場合は提携医療機関と連携し対応している。	利用開始時に、利用者・家族等に重度化した場合の対応に係わる指針を示し、その後、重度化した場合は、状況に応じて協力医療機関と連携して対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認や研修を行い、職員個々が対応できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定しての避難訓練を月1回行っている。又北消防署の方に来て頂き、年1回避難訓練の様子を評価してもらっている。	毎月の自主訓練に加えて、年1回消防署の立会いで同法人の施設や病院と合同で避難訓練を行っている。消防署が車で5分の場所にあり緊急時の連絡網も整備され、災害時の備品も整備中だが、救急救命訓練は定期的に行われていない。	全職員の定期的な救急救命訓練の受講を期待したい。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。	利用者の呼びかけは名字に「さん」づけとし、気になる対応があればその都度注意している。接遇に関するプリントを職員に配布し確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り 本人の思いや要望を表し やすいよう努め 個々の思いを尊重したケアを心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを把握し安心して安らかな日々を過ごして頂ける様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、理、美容室が月2回あり、多数利用されている。又気分転換の化粧 マニキュアなどもして頂いている。			

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取り、芋の皮むきなどできるお手伝いはして頂いている。食器の後片付けやお盆拭きなども職員と一緒にやっている。	利用者が調理の一部や後片付けなどを手伝っている。音楽を流しながら、職員の一部は利用者と一緒に食事を摂っている。寿司の食べ放題の日を設けたり、畑で採れた野菜を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士よりカロリー計算された献立に沿って提供している。水分は1日1000cc以上は必ず摂って頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人で出来る方には声掛けし必ず口腔ケアを実施し口腔内確認している。夜間は義歯の消毒保管をし異常のある方は歯科を受診して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。	ケース記録により利用者の排泄パターンを把握し、誘導が必要な方はタイミングに合わせて誘導している。誘導の際には周囲に聞こえないように耳元で声かけしたり、トイレではドアの他にカーテンも使用して、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合った下剤の調整を医師と相談しながら行い、水分や適度な運動も実施し、必要時は医師の受診も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人や家族の意向も考慮し週2、3回は必ず入浴して頂くようにし、リラックスして入浴して頂ける様にしている。拒否がある場合は日にちを変更し対応している。	日曜以外は毎日入浴可能で、午後が中心だが希望があれば午前も入浴可能である。1人週2~3回入浴できている。入浴拒否がある場合も、声かけの工夫や日にちをずらして入浴に繋げている。更衣所の温度管理にも注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に合わせて日中も横になる時間を作っている方もいる。居室内の温度、湿度にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は受診ノートを確認し薬の変更が無いか確認している。特変時は薬の影響はないか常に確認している。又その方にあった服薬方を統一して行えるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の情報や本人の意向に沿ってレクやお手伝いの声掛けを行っている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かっこう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭や百合が原公園など散歩へ行ったり外食やバスレクなど外出の機会を作っている。	天気の良い日は毎日のように隣接する大きな公園や中庭に散歩に出かけている。年間行事では畑仕事や野外食、ランチバイキングなどで外出している。冬は外出が減るが、渡り廊下を通して隣接する特養の喫茶やゲームコーナーなどに行き楽しんでる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は職員がお金の管理をしており、所持している方もいるが、買い物の際はお小遣いから出すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は電話出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾り付けを心掛けている。又共同空間を気持ちよく使って頂けるよう環境管理、衛生保持に努めている。	共用空間は広く清潔であり、手作りのカレンダーや季節の飾り付けが施されている。行事の写真や書道などの作品も飾られ、居心地のよい雰囲気である。様々な場所にソファが置かれ、くつろげる場所が多い。全体が明るく、温度・湿度も調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し落ち着いて談話されたり安らげる空間作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるようご家族に協力して頂き馴染みの家具やソファ、花やご本人の習字の作品など飾っている。	各居室は広くて清潔である。大きな窓があり3階のため眺めが良い。テレビや鏡台、テーブルなど馴染みの家具が持ち込まれ、壁にはカレンダーや家族が持参した飾りものなどがあり、その人らしく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんのわかることわからないことを見極め自立して生活できる支援を工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200215		
法人名	社会福祉法人 百合の会		
事業所名	グループホーム オニオンコート		
所在地	札幌市北区百合が原11丁目186-3		
自己評価作成日	平成26年9月6日	評価結果市町村受理日	平成26年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「かっこう ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0170200125-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ゆりアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に付く所に理念を掲示し、又月に1度認知症ケア会議の中で理念の確認を行い、意識を高め実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に施設行事に参加して頂く機会を作ったり、特養やデイサービスとの合同行事などで交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的には行っておらず今後の課題としたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、地域包括センター、予防センター、病院職員、地域住民、ご家族に参加して頂き行事の報告や色々なテーマで意見交換などしサービス向上へ活かすように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議や役員会、職員の外部研修などで連絡を取ったり、他のグループホームとの交流も行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで身体拘束についての基準や具体的な行動等を理解できるようにして職員の意識強化に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会にて傷、あざ記録を報告し、虐待の疑いはないか等議論し防止に努めている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会などを設けて成年後見人制度について学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項を説明し不安や疑問には納得がいくまで説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスを設置し日々の意見や要望等をその都度検討すると共にすぐ対応するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議は2週間に1度行い、意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を考慮しそれに応じた給与水準、現場環境、条件の整備を行い やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やチャレンジシートを使用し、スキルアップができる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市と区のグループホーム連絡会に出席し勉強会や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を与えないようコミュニケーションをしっかりと取り本人が安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際にこちらから近況報告をし、ご家族の疑問、質問、要望などを聞きやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをし本人に必要な支援を検討しサービス提供している。活用できるサービスも考慮して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しながらご本人の自由を尊重しつつ、家庭的な雰囲気を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時はゆっくりと過ごすことができるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設関連の医療施設だけではなく本人や家族が希望される病院の受診などできるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には入居者さん同士の会話の仲介に入り孤立しないよう、又トラブル防止にも努めている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ入所された方に支援の相談やご家族のお話を聞いたりし関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるよう個別誕生会ではできるだけ個々の思いに添った対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族よりこれまでの生活歴を伺い又センター方式のシートを活用しこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めるよう職員間の情報交換を密にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、ケース会議等で家族の意向や本人の個性を重視したケアプラン作成に努めた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等個別日誌に記入し 日常の変化、要望を把握しケアプランへ反映させている。必要時カンファレンスや会議等でプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養のカラオケルームや地域交流スペースにあるゲームなども活用しグループホーム内だけではなく柔軟な支援やサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に参加して頂けるように、会議の主旨を地域の方に理解して頂き、連携を持てるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人や家族と相談し、同意の下で受診している。又 歯科 皮膚科 精神科 耳鼻科 精神科なども母体施設と連携を取り随時往診できるようにしている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院内の看護職員や医師に受診すべきか等迷った場合は相談でき 助言等を受けられるような体制になっている。又特養の看護師が週1回 グループホームに来て健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者、家族、病院との連絡を密にするよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意書に署名捺印をもらっている。実際に重度化した場合は提携医療機関と連携し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認や研修を行い、職員個々が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定しての避難訓練を月1回行っている。又北消防署の方に来て頂き、年1回避難訓練の様子を評価してもらっている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り 本人の思いや要望を表し やすいよう努め 個々の思いを尊重したケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを把握し安心して安らかな日々を過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、理、美容室が月2回あり、多数利用されている。又気分転換の為化粧 マニキュアなどもして頂いている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取り、芋の皮むきなどできるお手伝いはして頂いている。食器の後片付けやお盆拭きなども職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士よりカロリー計算された献立に沿って提供している。水分は1日1000cc以上は必ず摂って頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人で出来る方には声掛けし必ず口腔ケアを実施し口腔内確認している。夜間は義歯の消毒保管をし異常のある方は歯科を受診して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合った下剤の調整を医師と相談しながら行い、水分や適度な運動も実施し、必要時は医師の受診も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人や家族の意向も考慮し週2、3回は必ず入浴して頂くようにし、リラックスして入浴出来る様になっている。拒否がある場合は日にちを変更し対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に合わせて日中も横になる時間を作っている方もいる。居室内の温度、湿度にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は受診ノートを確認し薬の変更が無いか確認している。特変時は薬の影響はないか常に確認している。又その方にあった服薬方を統一して行えるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の情報や本人の意向に沿ってレクやお手伝いの声掛けを行っている。		

グループホーム オニオンコート

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭や百合が原公園など散歩へ行ったり外食やバスレクなど外出の機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は職員がお金の管理をしており、所持している方もいるが、買い物の際はお小遣いから出すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は電話出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾り付けを心掛けている。又共同空間を気持ちよく使って頂けるよう環境管理、衛生保持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し落ち着いて談話されたり安らげる空間作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるようご家族に協力して頂き馴染みの家具やソファ、花やご本人の習字の作品など飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんのわかることわからないことを見極め自立して生活できる支援を工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム オニオンコート

作成日：平成 26年 11月 14日

市町村受理日：平成 26年 11月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が定期的な救急救命訓練の受講が出来ていない	全職員が緊急時の対応を理解する	新採用職員を重点として全職員が講習・研修に参加して救急時に対応ができるようになる	H27.11
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。